１．２年生大会
競 技 規 則

主 催 ：墨 田 区 サ ッ カ ー 協 会

主 管 ：墨田区サッカー協会 少年部

Sumida-fa.com

製 作 ：少 年 部 審 判 委 員 会

（２０２３年８月改正版）

《１，２年生大会 競技規則》

この競技規則は墨田区サッカー協会が開催する１、２年生大会用の競技規則です。選手及び審判員が理解しやすくプレーできるように、サッカー及びフットサル競技規則を基に製作いたしました。

この競技規則に記載されていない事項はサッカー及びフットサル競技規則を基に主催（主管）者が決定する。

第１条および第２条 ピッチ（フィールド）、ボール

ピッチの大きさ、表面、マーキング、ボールの種類、大きさは大会規定または主催（主管）者が定める。

第３条 競技者の数

・試合は、６人以下の競技者からなる２つのチームによって行われる。チームの競技者のうちの１人はゴールキーパーである。

・いずれかのチームの競技者が６人未満の場合、試合は開始されない。

・片方のチームのピッチ上の競技者が５人未満になった場合、試合は中止される。

・交代要員の人数制限はない。（大会ごとに決めることができる。）

・競技者が退場を命じられた場合は、交代要員の中からフィールドプレーヤーを補充できる。

◇交代の手続き

・交代は自由な交代とし、交代の回数は制限されない。

・交代は、ボールがインプレーまたはアウトオブプレー中に行われる。（審判の許可を得る必要はない）

・ピッチに出入りする競技者は、交代ゾーンから出る。ただし、ピッチを出る競技者が完全にタッチラインを越えて外に出るまで、ピッチに入ることはできない。

・ＧＫの交代は審判の許可を得て、アウトオブプレーの時に交代する。

第４条 競技者の用具

競技者の用具は下記事項を満たしたものとする。

安全

競技者は、自分自身、または他の競技者に危険な用具を用いる、あるいはその他のものを身につけてはならない（あらゆる装身具を含む）。

基本的な用具

競技者が身につけなければならない基本的な用具は次のものであり、それぞれに個別のものである。

・袖のあるジャージー、またはシャツ － ビブスの着用を認める。

・ショーツ －ゴールキーパーは、長いトラウザーズを着用ことができる。

・ストッキング －テープまたは同様な材質のものを外部に着用する場合、着用する部分のストッキングの色と同じものでなければならない。

・すね当て

・靴 －キャンバス、または柔らかい皮革製で、靴底がゴム、または類似の材質のトレーニングシューズ。

・サッカースパイクは認めない。

色－下記条件が満たない場合はビブスの着用を認める。・両チームは、お互いに、また、主審・第２審判と区別できる色の服装を着用しなければならない。

・それぞれのゴールキーパーは、他の競技者、主審・第２審判と区別のつく色の服装をしなければならない。

第５条および第６条 主審・第２審判

この大会の審判は、主審・第２審判の２名で行なわれる。

主審・第２ 審判の権限

試合は、任命された試合に関して競技規則を施行する一切の権限を持つ主審と第２審判の２人の審判員によってコントロールされる。但し、競技の開始（得点後の再開を含む)、終了、試合時間は主審が権限を持つ。

第７条 試合時間

・試合時間は大会毎に主催者が決定する。

第８条 プレーの開始および再開

・コインをトスし、勝ったチームが試合の前半に攻めるゴールを決める。
他方のチームが試合開始のキックオフを行う。

・スタートと、得点後の再開は、キックオフで行われる。

・キックオフからの直接ゴールを狙ってはいけない。（得点することはできない）反則⇒センタースポットから相手側の間接フリーキックで再開する。

第９条 ボールインプレーおよびボールアウトオブプレー

・ボールのすべての部分がタッチラインまたはゴールラインを越えて出たときはアウトオブプレーとなる。

第１０条 得点の方法

・ゴールポストの間とクロスバーの下でボールの全体がゴールラインを越えたとき、その前にゴールにボールを入れたチームが競技規則の違反を犯していなければ、１得点となる。

・攻撃側チームのゴールキーパーが、自分自身のペナルティーエリア内から意図的に手や腕でボールを投げる、または打ち、他の競技者がボールにプレーする、または触れることなく、相手のゴールにボールが入った場合、得点は認められない。試合は、相手チームのゴールスローで再開される。

第１１条 オフサイド

・オフサイドはない。

第１２条　　ファールと不正行為１．直接フリーキックとなるファール

反則の起きた場所からフリーキックが相手チームに与えられる。相手競技者は、ボールから５メートル以上離れなければならない。

守備側チームに対してそのペナルティ−エリア内で与えられた場合、フリーキックはペナルティーエリア内のいずれの地点から行ってもよい。

競技者が自分自身のペナルティーエリア内で下記の項目の反則をインプレー中に犯した場合、ボールの位置に関係なく、ＰＫが与えられる。・ハンドリング・・・・・・ボールを手で意図的に扱う。ただし、ＧＫが自分のペナルティーエリア内にあるボールを扱う場合を除く。

・キッキング・・・・・・・相手競技者をける、またはけろうとする。

・トリッピング・・・・・・相手競技者をつまづかせる、またはつまずかせようとする。

・プッシング・・・・・・・相手競技者を押す。

・ホールディング・・・・・相手競技者を抑える。

・ストライキング・・・・・相手競技者を打つ、または打とうとする。

・ジャンピングアット・・・相手競技者に飛びかかる。

以上の７つの反則の他に以下のプレーも反則となる。

※ｽﾗｲﾃﾞｨﾝｸﾞﾀｯｸﾙ・・・・・・相手競技者がボールをプレーしている、またはプレーしようとしているときに、ボールをプレーしようとしてすべる。ただし、不用意に、無謀に、または過剰な力で行わない限り、ＧＫが自分のペナルティーエリア内で行うものを除く。

２．間接フリーキックとなるファール

反則の起きた場所からフリーキックが相手チームに与えられる。相手競技者は、ボールから５メートル以上離れなければならない。

・危険な方法でプレーする。

・意図的に相手の前進を妨げる。

・ボールがインプレーとなって、他の競技者に触れる前に、キッカーが再びボールに触れる。

・ＧＫがボールを手から離すのを妨げる。

・自分自身のペナルティーエリア内で、味方競技者によって意図的にゴールキーパーにキックされたボールを直接手、または腕で受ける。

・自分自身のペナルティーエリア内で、味方競技者がキックインしたボールを直接手、または腕で受ける。

※ショルダーチャージ（肩と肩）については、サッカー同様「不用意に、無謀に、または過剰な力」で行わない限り認める。

第１３条 フリーキック

・フリーキックは、反則の起きた地点からボールを静止させ蹴らなければならない。

・ペナルティーエリア内攻撃側の間接フリーキックは反則の起きた地点から一番近いペナルティーエリアのライン上からボールを静止させ蹴らなければならない。

・ペナルティーエリア内の守備側のフリーキックは、ペナルティーエリア内の任意の地点からボールを静止させ蹴らなければならない。

・相手側選手は、ボールから５メートル以上離れなければならない。また、ボールが蹴られるまで５メートル以内に近づいてはならない。

第１４条 ペナルティーキック

・キッカー以外は、ペナルティエリア外、ペナルティーマークの後方にいなければならない。
また、ボールから５メートル以上離れなければならない。
キッカーは特定し、直接ゴールを狙わなければならない。パスをしてはならない。

第１５条 キックイン

・ボール全体がタッチラインを越えて出た場合、キックインで競技を再開する。

・キックインは、ボールが出たライン上またはその地点から外側 25ｃｍ（約ボール 1 個）以内にボールを完全　　に静止させてから蹴る。

・ボールがフィールドに入ったときインプレーになる。（キックインの場合ライン上にボールを置いた時点でインプレーとなります）

・立ち足は、ライン上、もしくはラインの外に置く。ラインを完全に踏み越えて蹴った場合は、同じ場所から相手ボールのキックインとなる。

・キックインから、直接得点は出来ない。（この反則は相手チームのゴールスローで再開する）

・キックインを行なう地点から相手側選手は５ｍ離れなければならない。

第１６条 ゴールスロー

・ボールが攻撃側競技者に最後に触れてゴールラインから出た場合は、ペナルティエリア内からＧＫがボールを手で投げて、競技を再開する。

・ボールがペナルティエリアを直接出たときに、インプレーとなる。

・守備側チームのゴールキーパーは、ゴールスローを行う準備ができてから６秒以内に行う。

・他の競技者やピッチに触れる前に直接ハーフウェイラインを越えてはならない。

・ＧＫのパントキックについても他の競技者やピッチに触れる前に直接ハーフウェイラインを越えてはならない。

（この反則はハーフウェイライン上の任意の地点から相手チームの間接ＦＫで再開する）

第１７条 コーナーキック

・コーナーキックは、ピッチ上、または空中にかかわらず、最後に守備側競技者が触れたボールの全体がゴールラインを越え、第 10 条による得点とならなかったときに与えられる。

・相手チームのゴールに限り、コーナーキックから直接得点することができる。

・タッチラインとゴールラインの交差する点に静止させて行なう。

・相手競技者は、ボールから５メートル以上離れる。

○その他 ◇ＧＫのプレー

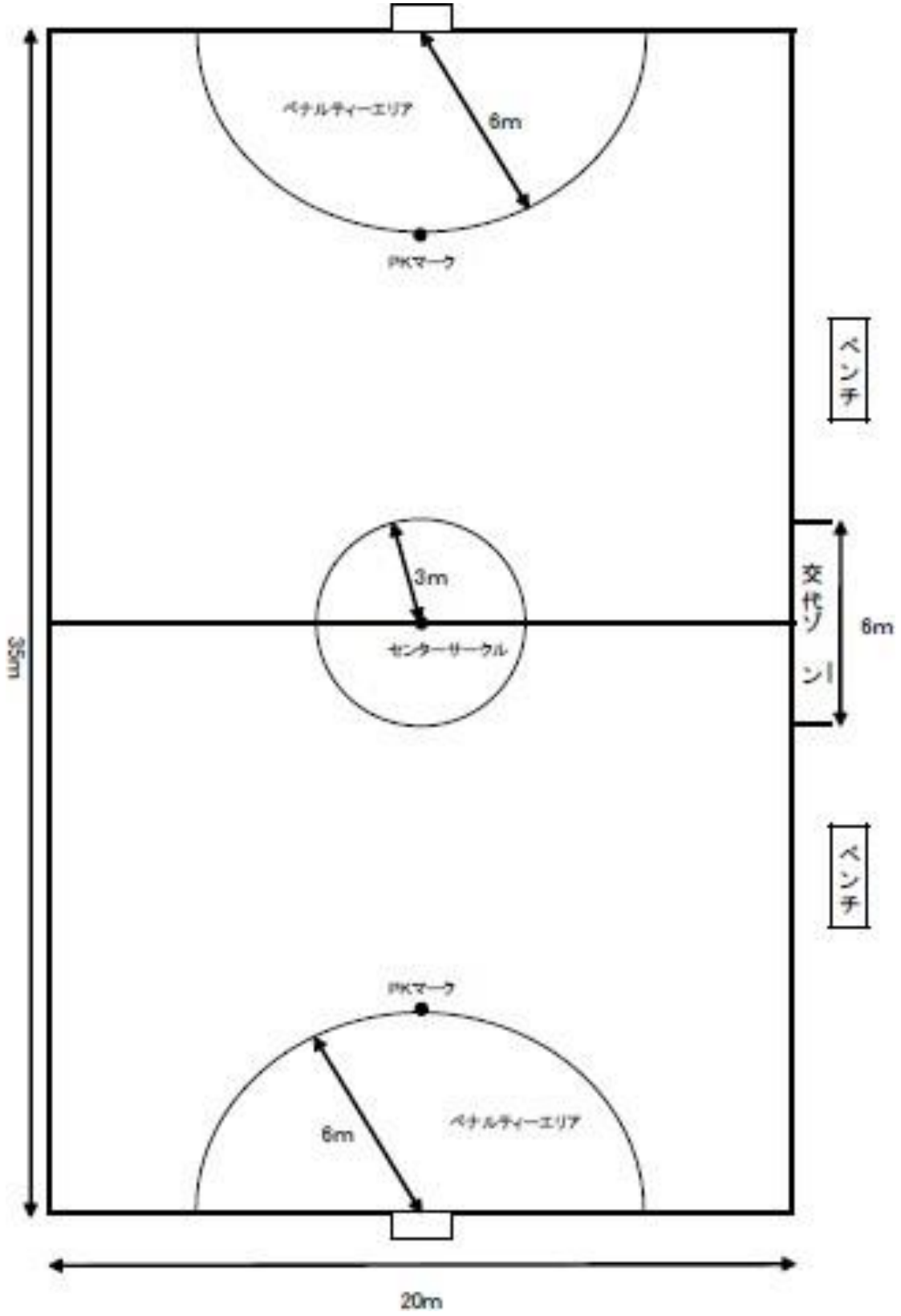
・ＧＫがインプレー中にボールを取った時は、手で投げるか、蹴ることが出来る。

・ペナルティエリア内でのＧＫのスライディングは、ボールに行った場合はＯＫ。

・ＧＫは、ペナルティエリアの外でプレーしても良い。

【以下余白】

□Ｍｅｍｏ
競技場の概要

・タッチライン、ゴールラインの長さは大会ごとに決めるが、ここでは基準となる数字を入れてあります。

・人工芝等で既にラインが描かれているフットサルピッチを利用する場合はそのラインを適用することを認める。 但し、交代ゾーンはタッチラインとハーフウェイラインの交点から夫々3m（下図）通りとする。
※サッカー競技を念頭に 8 人制サッカー競技規則と同様にする。